

探求型教育の基盤

JPREP 斉藤塾代表

斉藤

淳

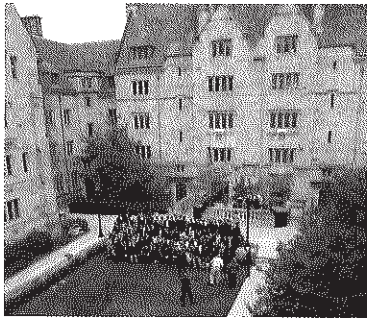
(昭63年卒)
63回



母校である酒田東高等学校に、探究科が新設されると言うことで、探究型学習、もしくは幅広くくりべラル・アーツ教育が広がるものか、米国大学で教鞭を執った経験に基づいて書き記したいと思います。

職業教育と教養教育、どちらが儲かるか

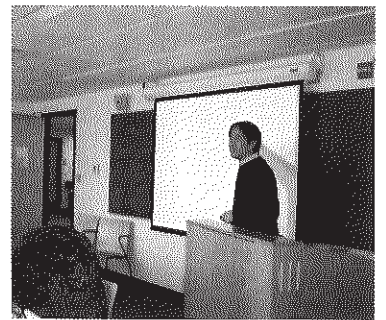
教育の成果をおカネで測定するのは、必ずしも適切ではないかもしれません。一方で、多くの生徒や保護者が、教育を受けることで子どもの未来がどう変わるのか、選択肢が増え、豊かな暮らしが可能になるのか、強い関心を持っています。スタンフォード大学ハッシュェック教授等による研究によれば、先進諸国のデータを見る限り、教養教育を受けることで生涯賃金が高



Yale大学 学生寮

正解を覚えればそれで良いのか?

では、広く浅く一般教養を身につければ良いのでしょうか?



授業風景

まる効果があるとのこと。職業教育を受けた場合、社会で必要な技術が変化してしまうリスクに晒されます。高校生の頃に重要だと見なされていた職業教育、専門知識が、技術変化の結果、役に立たなくなってしまうのです。要するに、一般教養を深める教育を受け、生涯にわたって学び続け、技術変化に適応しうる基盤を養うことが、子どもたちの利益にかなうとの知見です。

状況はそこまで単純ではありません。ある意味で、これまでの「普通科」教育は一般教養を養うためのカリキュラムでした。ところがなぜ「探究科」が必要とされる時代になったのでしょうか? これまでの日本型教育は、ともすれば大学入試をゴールに見据えた、暗記合戦でした。公平に採点することが至上命題になっ

ている大学入試では、明確に正解がある問題を出題し、大量の受験生を効率的にふるいにかけてきました。しかしそうした学習は、時代の変化に追いついていないと見なされるようになっていきます。

変わる「知識の値段」

以前は、知識を持つことそれ自体に価値がありました。私が酒東生だった頃、ハードディスクは高嶺の花で、容量20MBの製品が20万円以上しました。単純計算で、今の時代なら携帯電

話で普通に収まる量の情報を保存するのに数百億円かかったわけです。今、ネットで検索すれば様々な情報が瞬時に出てきます。固定的な構造で繰り返し処理するだけなら、人工知能の方が人間よりも優秀という時代が既に到来しています。

探究型教育で得られるもの

実は米国の大学も知識を覚えればそれでおしまいという教育を行っていた時代がありました。イェールやハーバードも、20世紀初頭までは期末テストと言えば古典の暗誦でした。ところが、今では探究型学習を地で行くスタイルが主体です。実は、仮説を組み立て、検証し、発表を行う過程で、これに必要な基礎的スキルを学生がいつの間にか身につけるのです。その教育効果は詰め込み型、暗記型学習と変わらぬか、むしろ凌駕するところが多いという知見もあります。

適切なコーチングが重要

実は私自身、授業や受験にあわせた学習と言うよりは、探究型学習で成長していった人間なのですが、節目節目で先生方や周囲の大人に様々なアドバイスを仰ぎました。適切なコーチングが非常に重要なのが探究型学

習です。もう一つ強調したいのが、探究型の教育を実践していく上で教員自身また保護者も、学ぶ喜びを忘れてはならないと言いうことです。分野横断的に、どのような学術的基礎が必要か指導するためには、先生の側が複数の専門分野で幅広く知識を持ち、仮説を検証するためのスキルを獲得していなければなりません。日本の学校教育現場は労働環境が過酷だと言われますが、理想的には定期的な研究休暇を義務づけたりしながら、教員自ら自分の専門や周辺分野について学び続ける必要があります。大人が学ぶことを放棄した社会では、子どもは強いられる形でしか学ばず、成果も微々たるものにとどまるでしょう。

プロフィール

中学・高校生向け英語塾「J Prep 斉藤塾」代表。元衆議院議員。1969年山形県生まれ。上智大学外国語学部英語学科卒業、イェール大学大学院博士課程修了(Ph.D. 政治学)。イェール大学助教、高麗大学客員教授などを歴任。2012年、英語塾を起業。

「斉藤塾」話す「書く」読む「聴く」に加え、「考える」の5技能が身につく英語塾。現在、東京自由が丘、渋谷、酒田で開校。